

7月10日（水）彦根市立東中学校を訪問しました！

不登校児童生徒に対する支援について

対談テーマ

3人のSCを学年ごとに基本配置し、学年の不登校担当と連携したカウンセリング計画によって、コンサルテーションを充実させながら不登校生徒を支援し、また学区の小学校へSCを派遣してカウンセリングの充実を図っている彦根市立東中学校の取組を見聞し、今後の不登校児童生徒の支援の在り方について対談しました。



訪問した教育委員

土井 真一 委員 窪田 知子 委員 野村 早苗 委員 石井 太 委員 塚本 晃弘 委員

彦根市立東中学校について



意見交換より

委員：不登校になる原因、要因は多岐にわたると思いますが、こういった要因が多いと捉えておられますか。

SC：文科省の委託調査では、生徒・保護者ともに学業の問題が要因として挙がっています。SCとして今までには、友達関係の相談に関わってききましたが、最近は、勉強を頑張りたいのに話を最後まで聞けない、板書が難しい、教室が騒がしいといった相談も多くなってきました。

委員：起立性調節障害の子どもたちに医療的なケアが必要だと思いますが、医療との連携についてはどうお考えですか。

SC：医療連携は大事です。諸課題調査の結果からも子どもたちの心身の不調を学校が十分把握できているとは言えない。文科省の心の健康観察を常時利用し、教育相談につなげていくことが今後必要だと思います。

彦根市立東中学校の不登校対策基本方針では「長期欠席生徒は命の最前線にいる」ということを全教職員で共有し、生徒との信頼関係、保護者との連携、教員間の協力。それぞれの3つのパイプの構築とSCの専門的な知識やアドバイスの活用を柱として不登校生徒に対する取り組みを進めておられます。

委員：一人でも多くの生徒が抱える問題を解決するために何か考えておられることがあれば教えてください。

SC：県内で配布されているサポートBOOKや、香川県のユニパスバンクは、不登校児童生徒の保護者の指針になるデータを集めたものです。学校や行政が不登校の保護者に対する支援ができるとよいと思います。

委員：小学校の情報を中学校へどのように情報共有し、連携されておられますか。

学校：3月末に、小学校別に小中連絡会を開き、情報共有しておりますが、十分とは言えず、課題の一つ。

SC：校区の小学校で、年間6時間以上の勤務が必要とされますが、東中学校では40時間前後をこれに充てています。不登校になりそうだと心配されている6年生のお子さん、保護者を中心にお会いし、入学後にSCとすぐつながれるように運営されています。

委員：長期欠席者の中で、全くコンタクトがとれない生徒、保護者は、おられますか。また学校には来られないけれど学校とは違う場所なら来られる子やオンラインであれば繋がれるといった子はおられますか。

学校：何らかの形でコンタクトは取れています。学校外のフリースクールや市の支援教室に通う生徒が数名おります。オンラインについては、繋がる形式や内容も様々であり、なかなか把握が難しいのが現状です。